

科目名	言語聴覚障害概論			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科1年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
言語聴覚士の仕事について興味と関心を広げる。								
〔授業全体の内容の概要〕								
言語聴覚障害の分類と各障害の特徴・診断の基本を理解し、その臨床方法の基礎を学ぶ。また、言語聴覚士法を理解し、言語聴覚士の役割、倫理について考察する。								
〔講師の実務経験〕								
言語聴覚士として、丹波市、おひさまにこにこクリニックに勤務。小児言語に精通。								
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕								
<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士の仕事や対象とする障害を知ることで、言語聴覚療法の全体像を理解する。 ・言語聴覚士の業務の流れを理解する。 ・言語聴覚士の職業倫理を学ぶ。 ・言語聴覚療法に関わる関連制度を学ぶ。 								
回数	講義内容							
1	言語聴覚士とは何か(言語聴覚士仕事、言語聴覚士法)							
2	言語聴覚士とは何か(歴史、資質、将来)							
3	言語聴覚士の働く現場							
4	コミュニケーションとは、コミュニケーション過程							
5	言語の諸側面							
6	話すためのメカニズム							
7	話すことの障害							
8	聴くためのメカニズム							
9	聴くことの障害							
10	書くことの障害、読むことの障害、言語聴覚士養成カリキュラム							
11	言語聴覚士の活動(評価・診断)							
12	言語聴覚士の活動(評価・診断、訓練)							
13	言語聴覚士の活動(訓練)							
14	言語聴覚士の活動(相談と環境調整)							
15	まとめ							
16	チーム・アプローチ							
17	クリティカル・パス、EBM(EBP)							
18	職業倫理①							
19	職業倫理②							
20	職業倫理③							
21	パートナーリズムとインフォームド・コンセント							
22	関連制度(社会保障制度)							
23	障害者基本法							
24	障害者手帳							
25	介護保険							
26	STの関わる障害についての概要①							
27	STの関わる障害についての概要②							
28	STの関わる障害についての概要③							
29	STの関わる障害についての概要④							
30	まとめ							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論						医学書院		
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】								
試験、100点満点で評価する。								